

# 自然のチカラ、 住まいの素材

## 本当の建築塾

今回は、身近に見たり、触れたりする機会も事が多いにもかかわらず、その長い歴史などについてはあまり良く知られていない『タイル』についてお話をさせて頂きましょう。

解説◎山本康彦  
取材協力◎株式会社ワイズ

### そもそもタイルとは？

「タイルとは、建築物の仕上げ材として内外の床、壁に用いる平板状の粘土焼成品。ラテン語の *tegula*（「覆う」の意）から派生したことで、床、壁、屋根などを覆う板状の材料を意味する」（辞書調べ）とありますが、海外では、屋根用の瓦（かわら）を含んだ意味で用いられることもあるそうです。



ガラスモザイク

日本では、屋外屋内を問わず、壁や床の保護、あるいは装飾用に多数張りつける板状の建材を総称して呼ばれることが多いタイル。材質は、陶磁器、ガラス、コンクリート、プラスチック、コルクやカーペットまでを『タイル』と呼ぶこともあります。

### タイルの種類と特徴

一般的に住宅の建材で使用されているものは、耐摩耗性・耐水性にすぐれ、施工が

比較的容易なため、床・壁仕上材として使用されますが、タイルの種類を素地の種類から大きく分けると、『磁器質タイル』『せつ器質タイル』『半磁器質タイル』『陶器質タイル』などに分けられます。

一般的な製造方法は、原料に珪砂（けいさ）、珪石、陶石、長石などの粉末に蛙目（がえろめ）や木節（きぶし）などの良質な粘土を混ぜるなどして、水練り、成形して焼成（素焼き）し、施釉（せゆう）をしてふたたび焼成（本焼き）をします。『磁器質タイル』は、プレス成形し、高温で焼成することにより、硬度が高く、素地が磁器質化しているため吸水率がほとんどなく耐久性が高いのが特徴です。モザイクタイルなどもこれにあたります。

『せつ器質タイル』は、押し成形し、吸水率は少なく、床用タイルとして多く使用されます。『半磁器質タイル』（硬質陶器タイルを含む）は、素地はほぼ白色、吸水率はやや多く、釉薬（ゆうやく\*1）を施し、床や壁などに使用されることが多いです。

『陶器質タイル』は、材自体は多孔質で吸水率がやや多く、床用タイル、内壁用タイル、外壁用タイルに分けられます。

良質な土から作られるこれらのタイルは、耐久性に優れ、自然環境に対して劣化・変色・変質がありません。化学的に安定性もあり、酸やアルカリなどの薬品に対して変質しにくく、耐熱性・耐火性・防水性に優れています。そして、耐摩耗性にも優れているため、メンテナンスに手間が掛から

ないのも特徴です。それでいて、様々な風合いや色彩、形、材質感が表現できるデザイン性もあるので、家づくりにおいては、キッチンや浴室、洗面場などの水周りに使用されることが多いです。

そして、環境ホルモンはまったく発生しませんので、土や石（鉱物）から生まれるこれらのタイルは、自然素材と呼んでも良いのではないのでしょうか。

### 世界最古のタイル

さて、この世界最古のタイルは、今から約4650年前に建てられたエジプト古王国時代の第三王朝期のネチエルクト・ジェセル王の「階段ピラミッド」の地下にあったものとされています。このジェセル王の墓はエジプト史上初のピラミッドで、世界でも最古の石造建築（辺109m×121m、高さ60m）と言われ、その階段状の外観は、国王の霊が天に昇って太陽と合体するための階段を象徴したものと考えられています。

世界最古のタイルは、この階段ピラミッドの地下にある未完成の地下通廊の壁に、石灰岩のブロックを積み上げた壁を彫り込んで嵌め込まれて





います。古代エジプトでは、当時は装飾Ⅱ  
寶石の位置づけで貴重な宝でもあったと想  
像しています。愛知県の常滑(とこなめ)に  
あるINAXライプ内の世界のタイル博物  
館に展示があります。

また、愛知県は良質な焼き物の土の産出  
地でもあります。常滑の他にも、モザイク  
タイル発祥の地域とも呼ばれている多治見  
には、モザイクタイルミュージアムもあり  
ますので、ご興味のある方は、是非一度ご  
覧になって下さい。

### 昔の日本のタイル



敷瓦

日本でもタイルと言う名称は近世代で使  
われるようになったと想像ができませんが、  
古い時代の日本でも、それに代わる物があ  
りました。タイルの素地と同じ『土(粘土)』  
から作られた『瓦』がそれにあたります。皆  
様は、瓦という屋根を葺く材としての認  
識が多いと思われませんが、その瓦は、まる  
で現代のタイルの様に床(地面)に置くなど  
して利用されてきました。それを『敷き瓦』

と言えます。瓦を敷くという考え方は古来、  
仏教・儒教から学んだといわれます。それ  
は京都の寺院の敷き瓦に残っており、その  
寺の路を歩いたときに、人々は路という空間  
が思索的なものであることを再発見してき  
たようです。

玄関やポーチなどの床にタイルを貼られ  
る方は多いですが、趣のある、日本古来の  
敷き瓦も採用してみたいかがでしょう  
か？

### 解決！ タイルの目地が汚れる

キッチンのコンロ前の壁にタイル貼りを  
計画する際、『目地が汚れる』『目地の掃除  
が大変』と敬遠し、キッチンパネルを採用さ  
れている方々をお見かけしますが、やはり  
質感は本物のタイルには遠く及びません。



目地をなくしたタイル壁

キッチンには、いわゆる女性の城でもありま  
す。質感も美観も、そして日々の掃除など、  
使い勝手も良いのが理想です。

そこで、少しの工夫で問題の目地部分は  
解決します。Y'sでよく行かう方法は、大判  
(300角)のタイルの目地を無くし、タ  
イルとタイルを突きつけて貼る事で、本来、  
3mm以上ある目地部分を無くしてしまう  
のです。そうすることによって、汚れや掃  
除の問題は簡単に解決できてしまいます。

### タイルで遊び・学ぶ

#### 『湘南村』・タイルアート

古くから伝わる自然が育んだ素材を使い  
家づくりを行っている工務店Y'sと、土  
や木の専門家である職人達が集い、ものづ  
くりを学びたいとの想いから『湘南村』とい  
うサークルが誕生しました。

家づくりだけでなく、土や木を使った工  
作から、生活に役立つセミナーなど、老若  
男女問わず、楽しみながら学べる場として、  
『湘南村』は色々なワークショップをご提案  
しています。湘南地域で不定期でイベント  
を開催していますが、子供会や地域の催し  
物、幼稚園、学校、会社まで、ご要望があ  
ればどこでも出張開催も致します。今年の  
10月には、県立公園で行われたイベントに  
も出張し、今回のテーマであるタイルを使  
い、他には無い湘南村オリジナルの特製の  
天然木の無垢フレームなどを使った『タイル  
アート』を開催しました。

他にも、『光る泥団子』『かまどづくり』『苔

玉づくり』『草木染め』など色々な企画をご  
用意してまいり、ご興味のある方は是非  
お声掛け下さい。詳しくはY'sのHPをご  
覧下さい。



解説/山本康彦◎1968年神奈川県鎌倉市生まれ。18歳  
から職人として30年近く湘南の地で家づくりに携わる。  
土を利用するの建材、版築製品の研究・開発、販売など  
に従事。一級建築士だけでなく、古民家鑑定士などの資格  
も30以上持っており、伝統的な構法や建材にも造詣が  
深い。近代の建材(新建材)や工法の矛盾や実害を肌で感  
じ、人が住まう家というものを原点から見つめ直す。エコ  
ブームに流されないバツンで地域循環型の家づくりをめざし、未だにすべて  
は解明されていない伝統的な工法や素材について研究や開発に余念がない。

取材協力

株式会社ワイズ

〒253-0021 神奈川県茅ヶ崎市浜竹3-4-64  
TEL: 0467-88-3903 FAX: 0467-88-3907  
URL: <http://www.ys-no1.co.jp>  
mail: [ys-no1@ys-no1.co.jp](mailto:ys-no1@ys-no1.co.jp)

